



『あそぼうさい』 コンテンツづくりと多世代交流の まちづくりの実践

福岡県北九州市 認定NPO法人 好きっちゃ北九州
理事長 入門 真生



1 『あそぼうさい』とは!?

遊びながら、防災について学習することができるコンテンツです。現在、様々なテーマや手法により、40以上ものゲームを開発しています。

子どもからお年寄りまで、体験型で楽しく実施することができるので、『多世代交流』のツールとして活用することができます。



2 「地域愛×防災まちづくり」への想い

認定NPO法人好きっちゃ北九州は、『自分のまちが好き』という「地域愛」の育みを目的に活動しています。自分のまちを見つめ、そのまちの自然との共存・共生をしていく『防災まちづくり』は、「このまちで暮らしていく」という地域愛を高めていく活動そのものになります。

防災まちづくりにおいて重要なことは、地域住民のコミュニケーションを高めていくことです。避難行動や災害時など、いざというときに声を掛け合える関係性を築いていくことを目指します。そのためには、

平時からの『繋がり』が大切です。

3 あそぼうさいの誕生秘話！

地区防災計画作成に向けた会議の支援や、自然地形や地名などに基づいた、そのまちならではの防災まちづくり講座などを各地で開催していました。

活動を重ねていくうちに、ふと気付きました。

防災活動への参加者は、地域活動を牽引してくださっている、いわゆる「シニア世代」の方々ばかりで、子ども達はもちろんのこと、若い世代の方々が参加していない実情を感じました。

そこで、子ども達をターゲットとした、『楽しい防災』『体験型の防災』を実施することはできないかとメンバーで知恵を絞って始めたのが『あそぼうさい』です。活動の象徴にロゴも作りました。

『クラシ・アソブ・タスカル』をテーマに、暮らしのなかにある防災だからこそ、楽しく学んで、遊びながら知識や行動を身に付けたり、ふれ合ったりして、最終的には、自分やまわりの人たちの命が助かることを目指しています。



4 どんどん増えていく コンテンツ！

あそぼうさいでは、「誰でもどこでも作れる」ことを大切に、アイデアを持ち寄って、コンテンツを開発しています。

地震と水害では、防災対策が全く異なります。山のまち、川のまち、マンションばかりのまち、地域それぞれに備え方が違います。

各地に行く度に、そのまちの防災課題に合わせてコンテンツをつくってきました。また、数人単位から数百人に及ぶ参加者数や、小さな部屋や体育館や屋外などの会場設定によっても、様々な遊び方を産み出してきました。

地形を実感するものや、協力して行うゲーム。防災知識を得るものや、災害への心の備えを感じるもの、カードゲーム、ボールを使うもの、耳を使うものからダンスまで、コンテンツは、現在40種類以上あります。ホームページでも公開していますので、全国各地での防災まちづくり活動に活用されることを望みます。



5 「好きっちゃアカデミー」 若い人材が大活躍！

北九州市内には、約130の小学校区があり、それぞれのまちからの依頼に基づき、あそぼうさいを順次実施しており、実施した校区は、半数近くの60になりました。ローカルな地域だけに限らず、その集客力を活

かして大型イベントでも共同開催したりしています。令和5年度の年間参加者数は1万人を超えました。

これだけ多くの実践を重ねていけるのは、『好きっちゃアカデミー』の存在が欠かせません。

『好きっちゃアカデミー』とは、大学生や高校生などの若い人材の活動母体のことで、皆さんの個人的な時間でのボランティアな活動です。グループチャットを用いて、各地の活動での参加者を募集し、現地集合で皆さんと一緒に活動しています。令和5年度だけでも延べ430人の若者たちに活動を一緒にいただきました。

彼ら・彼女らの若い世代が地域活動に参加することは、初めて出会った子ども達もとても喜ぶますし、その地域の皆さんにとっても、若い風が吹き込み、活動が活性化しています。

さらには、単なるお手伝いではなく、主体的に取り組んでいただき、進行役を務めたり、新たなゲームを開発したり、経験豊富なメンバーが新しいメンバーを迎え入れ、伝承していくなど、人材育成の場にもなっています。

このような、「ことづくり」「ひとづくり」で、防災まちづくり大賞に応募させていただきました。これからも各地の子ども達をターゲットにしつつ、多世代で交流し、防災を遊んで学べる『あそぼうさい』を実施していきたいと考えています。

